

(議長)

次に、出崎議員の発言を許可致します。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

えー私からは、2問質問致します。

まず、町の観光行政について。江差町には、観光資源の歴史文化構想があり、総合計画においても通年観光・宿泊観光を推進するため、役割分担や組織の在り方について検討するとの方針が示されています。

江差観光みらい機構と関係機関の役割分担によれば、町役場が観光施策を立案・予算措置を講じ、町内各団体と連携して観光を推進するということになっています。

しかし、各種イベントが計画され実行されているものの、町全体の通年戦略がなかなか見えてきません。

不特定の観光客誘致のためには、旅行事業者等を通じて、ターゲットを意識し、物語性を理解してもらう戦略が必要と考えます。

機能的な連携を構築するため、組織の在り方を含めて、今後どのように取り組もうとしているのか伺います。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員の1問目、江差町の観光行政についてのご質問にお答えを致します。

議員からは、総合計画等における観光推進に向け、行政、北海道江差観光みらい機構、町内各団体との役割分担や連携を含め、現在、町全体の通年戦略が見えない、今後、不特定の観光客誘致のため、ターゲットを意識し、物語性を理解してもらう戦略の必要性、機能的な連携を構築するための組織の在り方を含め、どのように取り組むのかというご質問でございます。

現在、当町の観光形態と致しましては、コロナ禍以降、これまで以上に個人型の通過型観光が多くなって来ており、第6次総合計画策定時の令和2年と現状が少し変わってきております。

一方、当町の観光資源は日本遺産のストーリー、ニシンの繁栄が息づく町に代表さ

れるように、本物の歴史や文化が今なお数多く残っていることが強みです。

議員ご指摘のとおり、ターゲットを意識し物語性を理解してもらい、通年での観光戦略が必要との認識は同じ考えであります。

今後の観光戦略に向けましては、函館市や道南圏の方々をターゲットとしながら、北の江の島構想による道の駅を拠点とし、日本遺産ストーリーと連動させながら、街中に周遊して頂くような仕組みを構築するとともに、現在の観光形態などを踏まえ、今年度策定する第6次総合計画後期基本計画や第3次総合戦略などに反映させながら、通年戦略となるよう取り組んでまいります。

その上で、DMOは地域の稼ぐ力を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する観光地域づくりの司令塔として、観光地域のマネジメント・マーケティングを行う役割を担っておりますので、北海道江差観光みらい機構を中核機関とし、行政、各団体が連動するような体制を構築しながら、観光を通じた地域活性化につながるよう取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

再質問します。

えーまず、どこからの観光客を、どういう交通手段で呼ぼうとするのか、どういうルートを案内させるのか、滞在時間に基づく具体的なコース設定、それらの戦略が必要のように思っています。

団体客なら旅行事業者への売り込み、個人客なら無料で止められる駐車場の案内図を配布するなど、具体的な戦略をどこの部署で、例えば、みらい機構なのか、町の観光課で音頭を取るのか、その辺の方向が分かっているようでしたら教えてください。

「追分観光課長」

追分観光課長。

(議長)

追分観光課長。

「追分観光課長」

えー、出崎議員より観光客のターゲット、交通手段などを含め、滞在時間に基づく具体的なコース設定、また、あの一団体、個人客の誘客に向けた戦略の必要性和、まっ、それを担う部署はどこかという質問であったかというふうに思っております。

先程の町長答弁と同様になってしまいますが、まずターゲットにつきましては、観

光客の玄関口となります、函館市からの道外客や函館、道南の方々を想定しております。

え一個人客の移動交通手段と致しましては、公共交通機関のほか、先程まあ個人型と言った部分では私用車、レンタカーが多くなって来ているというような状況でございます。

え一団体客の誘客と致しましては、議員からの質問にもありましたように、旅行会社の方へ誘客ということですね、昨年は函館市と連携しながらクルーズ船セミナーの方でのプレゼンの実施であったり、仙台市内へのエージェントにですね、松前町、上ノ国町と連携し、誘客を図ってきているところでございます。

え一いずれに致しましても、議員からご質問がありました様に、現在の観光客の形態としては、まあネットなどをですね検索した中で、旅行計画を立てる方が多いというふうに思っております。

そういう意味では、ホームページなどを含めて観光情報、体験情報などを網羅したですね、中での滞在時間に基づく、え一周遊コース設定などの旅前情報などをですね、充実させながら進めていければというふうに考えております。

えその上で、戦略担う担当部署と致しましては、当然あの行政は当課が、追分観光課が所管というふうになりますが、これも先程町長答弁にもありました様に、え一町内の各種団体を巻き込んだ中で戦略が必要となってくるので、観光の司令塔でありますDMOである北海道江差観光みらい機構と連携した中で、取り組んで行きたいというふうに考えております。

（議長）

出崎議員。

「出崎議員」

はい、分かりました。ありがとうございます。

次に移ります。開陽丸遺跡調査について伺います。

新聞報道によれば、開陽丸遺跡・引揚遺物保存活用検討委員会の初会合で、積み上げた泥や網を外し、船体を水中撮影してCGの立体映像を制作し、え一長期間保存のためにシートと砂による埋め戻し行うとされています。

近年、遺跡は文化遺産として、いかに観光資源として活用できるかに焦点が当てられています。町に足を運んでもらうために、現地の海中で実際に見せることができないかどうか、検討・議論したかどうかを伺います。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

出崎議員から開陽丸遺跡調査に関するご質問についてご答弁致します。

江差沖で座礁・沈没した開陽丸の船体の一部は、議員ご承知のとおり現在も海底で保存され、令和4年度に10年ぶりに現状確認調査を行ったところでございます。

令和5年度からは奈良文化財研究所の日本における水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業に関するパイロット事業による委託を受け、船体や引揚遺物の保存環境や劣化状況等の分析を進めております。

また、今後の保存・活用の在り方や、遺跡・遺物の価値を高めるための具体的な検討を進めることを目的に、専門家や学識経験者で構成する開陽丸遺跡・引揚遺物保存活用検討委員会を本年4月に設置し、5月11日に第1回の委員会を開催したところでございます。

議員から海中で実際に見せることができないか検討・議論をしたかのご質問でございますが、今回の委員会では、これまでの経過や今後の取り組みについて協議したところであり、ご指摘の内容については議論をしておりません。

観光資源としての活用につきましては、まちづくり全体の課題として、町の関係部局や観光関係者等、別な形において幅広く議論することが望ましいものと考えておりますのでご理解願います。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

再質問します。

まあ水中考古学遺跡のここは、先進事例として調査・保存だけではなくですね、現地にどうやって足を運んでもらうかという、観光に結びつける視点が必要だと思っております。CGだけでは江差に来なくても、見る事が出来るんじゃないかということです。

えー先にですね、青函圏のJOMONフォーラムにも参加してきましたけれども、まあ遺跡を如何にその魅力を観光に繋げるかということが、もうテーマになっていきます。

現時点では、社会教育課の方では、調査・研究で終わったら一応はまあ戻すという方向性があるようには、新聞で読めますけれども、実際にですね、町へ足を運んでもらうにはどうしたらいいのかということを含めてですね、活用の方法を視野に入れて

検討してもらいたいです。

まああの一例えば海中で見せるといってもですね、技術的だとか費用だとかそんな簡単な話じゃないんで、ただそういう視点をですね、そういう検討委員会で、そういうあの一知識学識者さんとか、そういう人たちの知恵を貰いながらですね、是非、観光資源として活用できるような方法を探ってもらいたいと思ってるんですが、如何でしょうか。

「社会教育課長」

社会教育課長。

(議長)

社会教育課長。

「社会教育課長」

はい。え一出崎議員から今、遺跡の魅力を観光に繋げるために、まあ海中でその一部を見せることが出来ないかという事を、検討委員会の中でも議論して頂けないかということでのご質問を頂きました。

今回あの一、先程教育長の答弁でもございましたとおり、検討委員会の中では保存活用ですとか、あとはその価値を高めて行くという様な、様々な視点で専門的な方からご意見を頂きたいというふうに考えてございますし、今後の検討の中で、様々なご意見を頂いて行く形を考えてございます。

その中で、先程もありましたとおり、観光としての全体的な部分にしましては、まあ教育委員会だけではなくて、これは町の部局の、先程の追分観光課ですとか、まちづくり推進課等々含めて、町全体のその観光関係者の中での議論になって行くのかなというふうに捉えておりますけれども、議員がおっしゃりました、今回のご提案というか、こういう形のものが出来ないかというところについては、検討委員会の方々も専門的な知識をお持ちでございますので、そういったところにも、こういった投げ掛けをしまして、ご意見を頂きながら、反映をして行きたいというふうに考えてございますので、宜しくお願い致します。

(議長)

宜しいですか。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

はい。もう一度ちょっと質問しますけれども。

あの一、まあ今、社会教育課の方で窓口になってやられている。だけど、全庁的なものとしてですね、そういうものをこっちが終わったら移るんじゃなくて、トータルな本当はあの対応の仕方があったんじゃないかと思います。

今回も検討委員会、活用検討委員会が発足していますから、今更まあ難しいんだと思うんですけども、今後特にこういうような課題があったらですね、日本遺産なんかでも、如何にそれを観光に繋げるかというあたりが議論になっているはずなんですね、こういう、今特に江差で先進的な事例がある訳ですから、そういうのについては、そういう方向で全庁で取り組むような委員会の設置の仕方が、あってるんじゃないかと思うんですが、その辺のお考えはどうでしょうか。

(議長)

副町長。

(議長)

あ、教育長。

「教育長」

えーと、今回の検討委員会の役割は、文化庁の水中考古に関するパイロット事業というのを、奈良の文化財研究所がまず請け負ったということです。

その研究の一つが、水中考古の保存活用ということなんですが、文化財行政の保存と活用という言葉が、その、ともすれば物を使って人を呼び込むってことなんですが、実は価値を高めるとか、その価値を改めてですね磨きをかけるとか、それを発信するというのが、実は文化財行政の中での保存あるいは活用という言葉に括られているということです。ですので、まずは専門の皆さんで、今回、国が委託した事業の成果をしっかりと出すということをこの委員会でやって行きたいと思いますので、ご理解願います。

(議長)

以上で、出崎議員の一般質問を終わります。